

都市再生整備計画 事後評価シート
本別地区

平成24年3月

北海道中川郡本別町

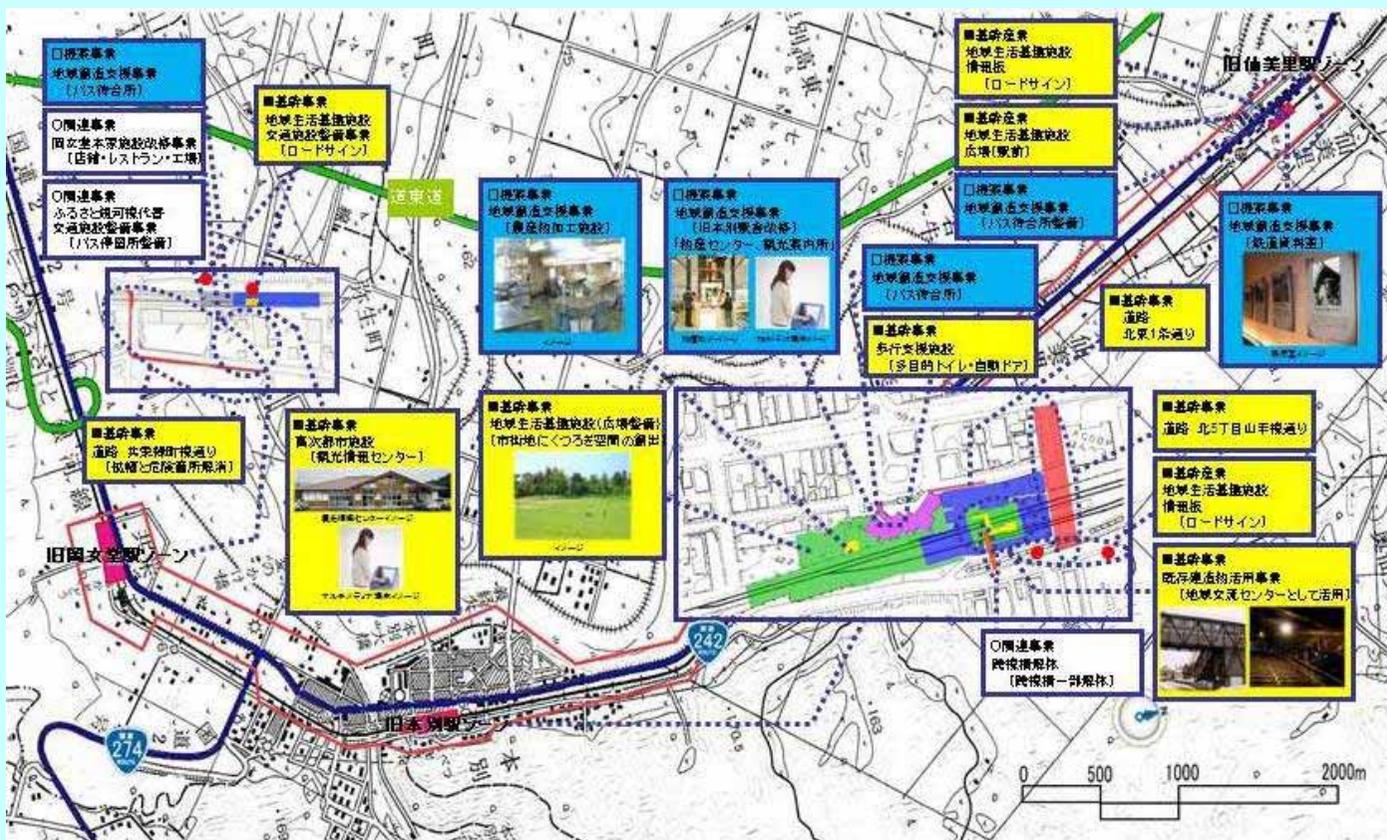
様式2 - 1 評価結果のまとめ

都道府県名	北海道		市町村名	中川郡本別町		地区名	本別地区		面積	265ha			
交付期間	平成19年度～平成23年度		事後評価実施時期	平成23年度		交付対象事業費	523 国費率 0.400						
1) 事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路(北東1条通り・共栄緑町通り)、地域生活基盤施設(広場・情報板)、高質空間形成施設(多目的トイレ)、高次都市施設(観光情報センター)、既存建造物活用事業(鉄道記念館)										
		提案事業	地域創造支援事業(農産物加工施設・物産センター・観光案内所・鉄道資料室・バス待合所)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名										
		提案事業	削除/追加の理由										
	新たに追加した事業	基幹事業	道路(北東1条通り)	当該ゾーンの中心施設である日本別駅とその周辺施設の動線確保のため、ユニバーサルデザインの観点から現状の歩道等の傾斜を緩和する必要がある事による事業費・事業量の増					削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
提案事業													
交付期間の変更	当初	平成19年度～平成23年度		変更		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響							
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
	指標1	観光客入込数	人/年	114,000	H17	150,000	H23	322,900	322,900	ありなし	道の駅としてのリニューアルオープンはもちろんのこと、施設内の飲食店等の充実も追い風となり、目標値を大幅に上回る効果が見込まれる。	平成24年6月	
	指標2	特産品町内売上高	百万円/年	120	H17	140	H23	339	339	ありなし	観光客入込数の増加に伴いキレイマズ等特産品の町内売上も伸びてきている。	平成24年6月	
	指標3	イベント参加者数	人/年	50,000	H17	60,000	H23	72,900	44,450	ありなし	本町最大のイベントである「きらめきタウンフェスティバル」が台風の為、平成23年度中止となったため、目標値に達していない。	平成24年6月	
	指標4									ありなし			
	指標5									ありなし			
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
	その他の数値指標3												
4) 定性的な効果発現状況	平成21年4月の道の駅「ステラ ほんべつ」の開設、観光情報センターの設置により、情報発信がなされ、観光客等が多く立留まるようになった。特産品販売場所や販売品目の増加などに伴い特産品売上高も増加している。												
5) 実施過程の評価	実施内容												
	モニタリング	交付期間中において各種事業を円滑に進め、目標に向けて確実な効果をあげるために「本別町まちづくり検討委員会」が事業成果について評価や事業の進め方の改善等を行うためのモニタリングを実施する。					実施状況					今後の対応方針等	
	住民参加プロセス	本別町まちづくり検討委員会、「農産物加工施設ありかに検討委員会」、「農産物加工施設管理運営検討委員会」など、町・J・A・商工会・自治会・観光協会等各種団体で構成する委員会、事業計画や進捗状況を説明した中で、事業の進め方や改善等を検討した。					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					今後も、まちづくり検討委員会を毎年開催し、事業のフォローアップや、新たなまちづくりについて検討する。	
	持続的なまちづくり体制の構築	「NPO法人銀河ほんべつ」により新たに造られた道の駅の管理運営体制を目指す。					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					新たな公共の理念に基づき、人にやさしく、持続可能な管理運営体制の構築。	

様式2 - 2 地区の概要

本別地区(北海道中川郡本別町) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標 賑わいと活力あふれる人にやさしいまちの創出 目標1 鉄道廃止に伴うバス転換後の新たな交通拠点整備による賑わいの創出 目標2 地域住民と来町者との交流拠点の創出を図る 目標3 観光情報・地域情報発信による交流人口の拡大を図る。	観光客入込数	単位: 人/年 114,000 H17	150,000 H23	322,900 H23	
	特産品町内売上高	単位: 百万円/年 120 H17	140 H23	339 H23	
	イベント参加者数	単位: 人/年 50,000 H17	60,000 H23	44,450 H23	
		単位:	H	H	H
		単位:	H	H	H



まちの課題の変化 賑わいと活力あふれる人にやさしいまちの創出を大目標に、鉄道廃止に伴うバス転換後の新たな交通拠点整備による賑わいの創出については、バス待合所整備や道路整備により達成する事ができた。地域住民と来町者との交流拠点の創出や観光情報・地域情報発信による交流人口の拡大は、道の駅「ステラ ほんべつ」の開設、観光情報センターの設置等により目標を達成する事ができた。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む) 第6次本別町総合計画の基本構想で示されている「地域資源を活かした豊かなまちづくり」「快適でやさしさのあるまちづくり」の施策にある、新たな活力を生む商工業の振興 地域に根ざした特色ある観光 総合交通体系の整備を柱とした、公共交通の利用増進、道の駅・農産物加工施設・観光情報センター等の有効活用、地産地消や食育などに根ざした、観光・地場製品の振興を目標に、人材育成セミナーなどを開催していく中で、地域活性化を目指す。事業終了後も、継続的に「本別町まちづくり検討委員会」を開催して、町の活性化について検討していく。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2 - 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2 - その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2 - 参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3 - モニタリングの実施状況
- 添付様式3 - 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3 - 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4 - 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4 - 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4 - 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5 - 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5 - まちの課題の変化
- 添付様式5 - 今後のまちづくり方策
- 添付様式5 - 参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5 - 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6 - 参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標					
B. 目標を定量化する指標					
C. 目標値					
D. その他(計画期間)					

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	北5丁目山手線通り(当初:北東1条通り 町道名変更による)	62	65m	74	110m	新設区間の起点と終点の高低差が大きく、基準勾配するために、区間延長して国道からすりつける必要が生じた事による事業費・事業量の増	新設区間の起点と終点の高低差が大きく、基準勾配するために、区間延長して国道からすりつける必要が生じた為、事業量が増っており、目標1 鉄道廃止に伴うバス転換後の新たな交通拠点整備による賑わいの創出に関連するが、指標及び数値指標は据え置く		
道路	共栄緑町通り	26	270m	30	270m	事業精査による事業費増	影響無し		
道路	北東1条通り	-	-	7	32m	当該ゾーンの中心施設である日本別荘とその周辺施設の動線確保のため、ユニバーサルデザインの観点から現状の歩道等の傾斜を緩和する必要がある事による事業費・事業量の増	歩道等の勾配緩和の為、新たに事業箇所名が発生した物であり、目標1 鉄道廃止に伴うバス転換後の新たな交通拠点整備による賑わいの創出に関連するが、指標及び数値指標は据え置く		
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	広場・情報板	127	8,430㎡、3基	139	7,927.5㎡、5基	狭隘な用地最大限の駐車スペースを確保するための面積増と擁壁工法採用や情報板の設置箇所増による事業費・事業量の増	目標1 鉄道廃止に伴うバス転換後の新たな交通拠点整備による賑わいの創出に関連するが、指標及び数値指標は据え置く		
高質空間形成施設	多目的トイレ	5	ベビーベット設置、オストメイト対応	8	ベビーベット設置、オストメイト対応	目的トイレ利用者の利便性確保のため、自動ドア設置した事による事業費の増	影響無し		
高次都市施設	観光情報センター	110	107.93㎡	110	107.93㎡	無し	影響無し		
既存建造物活用事業	鉄道資料館	24	資料館1棟、駐車場875㎡	51	資料館1棟、駐車場1,000㎡	事業精査による事業費増	影響無し		
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ¹ (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

¹: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ¹ (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	農産物加工施設	58	226.8㎡	100	293.04㎡	より多くの地場産品を活用した特産品の研究開発を行うため、増室した事による事業費・事業量の増	目標2 地域住民と来町者との交流拠点の創出を図るに関連するが、指標及び数値指標は据え置く		
	物産センター	5	22.68㎡	6	37.08㎡	事業精査による事業費・事業量の増	影響無し		
	観光案内所	6	51.84㎡	9	45.36㎡	観光・道路情報検索端末機器の設備内容の変更及び事業精査による事業量・事業費の増	影響無し		
	鉄道資料室	1	18.8㎡	1	18.8㎡	無し	影響無し		
	バス待合所	6	3施設	7	3施設	利用者の利便性を考慮し、面積増した事による事業費の増	影響無し		
事業活用調査									
まちづくり 活動推進事業									

¹: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
ふるさと銀河線代替バス施設整備事業		旧岡女堂駅	-	-	平成21年度	平成21年度	完了	
十勝東北部地域産業観光事業		十勝東部4町	-	-	平成21年度～	平成21年度～	継続	
(株)岡女堂本家施設改修事業		岡女堂本家	200	200	平成21年度	平成21年度	完了	
道の駅運営事業		旧本別駅	-	-	平成21年度～	平成21年度～	継続	
跨線橋解体		旧本別駅	0.2	0.2	平成20年度	平成20年度	完了	
合計			200.2	200.2				

添付様式2 - 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考) 1 計画以前の値 (ア)	従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度 2		1年以内の達成見込みの有無	
				基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	事後評価	見込み	あり	なし		
指標1	観光客入込数	人/年	平成22年度の観光客入込数を、本別町観光協会聞き取りにより、評価見込み値とした。		114,000	H17	150,000	H23	モニタリング	H22	322,900	モニタリング		
									事後評価	確定見込み	322,900	事後評価		
指標2	特産品町内売上高	百万円/年	平成22年度の特産品町内売上高を、本別町商工会聞き取りにより、評価見込み値とした。		120	H17	140	H23	モニタリング	H22	339	モニタリング		
									事後評価	確定見込み	339	事後評価		
指標3	イベント参加者数	人/年	平成22年度のイベント参加者数を、本別町観光協会聞き取りにより、モニタリング値としたが、平成23年度は本別町最大のイベントである「きらめきフェスタ」が中止となった為、10月までの実数と10月以降を想定し、評価見込み値とした。		50,000	H17	60,000	H23	モニタリング	H22	72,900	モニタリング		
									事後評価	確定見込み	44,450	事後評価		
指標4									モニタリング			モニタリング		
									事後評価	確定見込み		事後評価		
指標5									モニタリング			モニタリング		
									事後評価	確定見込み		事後評価		

指標	目標達成度 × の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	過年度と比較して明らかに利用者数が増えており、見込値においても目標値を大きく上回っているため、目標は達成したと判断した。	
指標2	過年度と比較して売上高が増えており、見込値においても目標値を大きく上回っているため、目標は達成したと判断した。	
指標3	本町最大のイベントである「きらめきタウンフェスティバル」が台風の為、平成23年度中止となったため、目標値に達していないが、平成22年度のイベント参加者数は72,900人となっており、来年度については目標に達成すると判断した。平成22年度の「きらめきフェスタ」参加者は35,000人であり、平成23年度「きらめきフェスタ」が開催されたとすると、79,450人が想定される為、とした。	
指標4		
指標5		

1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2 - 参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

平成21年4月の道の駅「ステラ ほんべつ」の開設、観光情報センターの設置により、情報発信がなされ、観光客等が多く立留まるようになった。特産品販売場所や販売品目の増加などに伴い特産品売上高も増加している。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3 - モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		体制構築に向けた取組内容	まちづくり組織名・組織の概要	
本別町まちづくり検討委員会にてのモニタリング	予定どおり実施した	平成17年度～平成22年度まで、11回の検討委員会を開催。年1回以上開催。まち交事業の年度ごとの概要説明をし、各団体からの意見を反映した中で事業を進めている。		今後も、まちづくり検討委員会を毎年開催し、事業のフォローアップや、新たなまちづくりについて検討する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

添付様式3 - 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		体制構築に向けた取組内容	まちづくり組織名・組織の概要	
本別町まちづくり検討委員会	予定どおり実施した	平成17年度～平成22年度まで、11回の検討委員会を開催。年1回以上開催。まち交事業の年度ごとの概要説明をし、各団体からの意見を反映した中で事業を進めている。		今後も、まちづくり検討委員会を毎年開催し、事業のフォローアップや、新たなまちづくりについて検討する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
農産物加工施設ありかた検討委員会	予定どおり実施した	平成22年度に、5回のありかた検討委員会を開催。平成23年度施工予定の農産物加工施設のありかたについて、具体的には事業目的・建設規模・運営方法等について、町・JA・商工会・自治会・観光協会等各種団体と協議した。		今後も、まちづくり検討委員会等で、運営状況を報告した中で、事業のフォローアップや、新たなまちづくりについて検討する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
農産物加工施設管理運営検討委員会	予定どおり実施した	平成23年度に、検討委員会を開催。平成24年度供用開始予定の農産物加工施設の管理運営方法について検討。町・JA・商工会・NPO・市街地婦人会・食生活改善推進委員会などの各種団体で構成。		今後も、まちづくり検討委員会等で、運営状況を報告した中で、事業のフォローアップや、新たなまちづくりについて検討する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

添付様式3 - 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		体制構築に向けた取組内容	まちづくり組織名・組織の概要	
NPO法人の設立	予定どおり実施した	新たに造られた道の駅の運営について、町民力を生かした持続的な管理運営をするために、NPO法人の設立を目指す。	NPO法人銀河ほんべつ 町民有志による団体。	新たな公共の理念に基づき、人にやさしく、持続可能な管理運営体制の構築。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4 - 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
本別町まちづくり交付金事業事後評価検討委員会	総務課長、農林課長、住民課長、保健福祉課長、建設水道課長、教育委員会教育次長	平成23年12月19日	企画振興課

添付様式4 - 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3			
指標名		観光客入込数		特産品町内売上高		イベント参加人数			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路(北5丁目山手線通り)		道路整備により、新たに整備された駐車場へのアクセスが容易になり、さらに駐車台数も従来よりも増えたことにより、今まで以上に観光客が寄りやすい施設(旧本別駅となった。観光情報センターの観光情報により、道の駅等への誘導がなされている事も大きな要因と考えられる。また、道の駅「ステラほんべつ」のリニューアルに伴い、施設内の観光案内や飲食店が充実したことによる相乗効果で、利用者数は目標値を大きく上回る数値となった。	道路・駐車場整備、道の駅「ステラほんべつ」のリニューアル、観光情報センター等の整備により、観光客入込数の増加に伴い、特産品町内売上高も、目標値を大きく上回る決果となった。	道路・駐車場整備、道の駅「ステラほんべつ」のリニューアル、観光情報センター等の整備により、平成22年度のイベント参加者数は72,900人と、当初計画を大きく上回っており、大きな効果があったと考えられる。しかしながら、平成23年度は、本別町最大のイベント「きらめきフェスタ」が、台風の為、中止となったため、目標値は下回る予定であるが、来年度には当初計画の目標値を大きく上回ると考えられる。				
	道路(共栄線町通り)								
	道路(北東1条通り)								
	地域生活基盤施設(広場、情報板)								
	高質空間形成施設(多目的トイレ)								
	高次都市施設(観光情報センター)								
	既存建造物活用事業(鉄道資料館)								
提案事業	地域創造支援事業(農産物加工施設、物産センター、観光案内所、鉄道資料室、バス待合所)								
関連事業	ふるさと銀河線代替バス施設整備事業								
	十勝東北部地域産業観光事業								
	(株)岡女堂本家施設改修事業								
	道の駅運営事業								
	跨線橋解体								

指標改善への貢献度

- ・事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ・事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- ・事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ・事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	より利用しやすくなり、滞在しやすくなった施設として、引き続き施設内の飲食店や売店との相乗効果で利用者数の増加・安定につなげる。	今後も、観光情報発信や、地産地消に根ざした本別ブランドづくりなど地域活性化を進めていく。	イベントの定着化・増加を図り、魅力あるイベントづくりを道の駅・観光情報センター等の施設を有効活用しながら行っていく。
-------	---	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5 - 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
本別町まちづくり交付金事業事後評価検討委員会	総務課長、農林課長、住民課長、保健福祉課長、建設水道課長、教育委員会教育次長	平成23年12月19日	企画振興課

添付様式5 - まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
拠点施設(旧仙美里駅・旧本別駅・旧岡女堂駅)の活性化	・3駅それぞれの用途で整備し、観光誘導等総合的にも本別町として一体感のある整備ができ、バス待合所の整備により、新たな公共拠点の整備ができた。 ・本別駅を「道の駅ステラ ほんべつ」としてリニューアルオープンでき、新たな町の顔としての機能をはたせる事ができた。	特に無し	特に無し
体験型観光の実現	・農産物加工施設の建設に伴い、様々な体験メニューが実施可能になり、体験型観光への大きな足掛かりとなった。	特に無し	
観光客等の町への滞留促進	・道の駅の整備により、飲食施設や売店が充実し、より観光客が訪れやすい施設が整備された。道の駅・観光情報センターでの情報発信との相乗効果で、滞留される町になってきている。	特に無し	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5- A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5- B欄に記入します。

添付様式5 - 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	公共交通の拠点として3駅の利用増進を図り、道の駅を、町の顔として、商業や観光の中心的な役割を継続させる。	バス利用の拡大を進め、道の駅を町の顔として町内外に広く発信する。	道の駅祭りの定期開催
	農産物加工施設で、様々な体験型メニューを作り、食育の理念を基本に置き、町内外に広く発信する。	本別町の地場産品を中心に、メニューを作り、町内外の人に親しみやすく、使われやすい施設の運営・管理を目指す。	修学旅行・研修旅行等の誘致
	道の駅等で各種イベントを実施することにより、町の顔として、商業や観光の中心的な役割を継続させる。	引き続き各種イベントを進め、観光協会等と連携し、今後も商業や観光の中心的役割を担う。	道の駅祭りの定期開催等

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

様式5 - の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

<input type="checkbox"/>	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4 -)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4 -)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	残された課題や新たな課題(添付様式5 -)を再確認した。

添付様式5 - 参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

無し。

添付様式5 - 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-1、2-2に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-1、2-2から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が「又はx」の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			評価値	達成度	1年以内の達成見込みの有無	予定時期
指標1	観光客入込数	人/年	114,000	H17	150,000	H23	確定 見込み	322,900		あり なし	→	平成24年6月	本別観光協会にて推計した利用者数を確定値とする。	平成24年4月末までには平成23年度の数値が確定する。
指標2	特産品町内売上高	百万円/年	120	H17	140	H23	確定 見込み	339		あり なし	→	平成24年6月	本別町商工会にて推計した売上高を、確定値とする。	平成24年4月末までには平成23年度の数値が確定する。
指標3	イベント参加者数	人/年	50,000	H17	60,000	H23	確定 見込み	44,450		あり なし	→	平成24年6月	本別観光協会にて推計した利用者数を確定値とする。	平成24年4月末までには平成23年度の数値が確定する。
指標4				H		H	確定 見込み			あり なし	→			
指標5				H		H	確定 見込み			あり なし	→			
その他の数値指標1							確定 見込み				→			
その他の数値指標2							確定 見込み				→			
その他の数値指標3							確定 見込み				→			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	当初の想定以上の効果がでた。道の駅の新設による入込数や売上効果が高い。道東道の開通効果も大きいと考えられる。	
	うまく いかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	道の駅や観光情報センター等の新設により、従来立ち寄りなかった町外来訪者の誘致やそれに伴う特産品売上高の増等計画どおりの整備ができた。道東道の開通効果も大きいと考えられる。	
	うまく いかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	まちづくり検討会等の開催や、広報で住民理解を得ながら事業を進める事ができた。	
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	計画(PLAN)と実施(DO)の間に検討会を設けて事業を施行した。	
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式6 - 参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の交付金の活用予定 現段階では、都市整備計画事業の予定は無いが、今後も道の駅や、農産物加工施設や観光情報センター等を有効利活用し、地産地消や食育などの理念を基に、本別ブランド化を目指し、加えて人材育成セミナーなどを開催していく中で、地域活性化を目指す。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	町のホームページに掲載	平成24年1月6日～1月20日	平成24年1月6日～1月20日	担当課への 郵送、FAX、電子メール	企画振興課
広報	広報誌「かけはし」に掲載	平成24年1月号 1月1日発行	平成24年1月6日～1月20日		
その他	窓口閲覧	平成24年1月6日～1月20日	平成24年1月6日～1月20日		

住民の意見	特に無し				
-------	------	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	小篠隆生 北海道大学大学院工学研究院 准教授	第1回 平成23年11月2日 第2回 平成24年1月25日	企画振興課	本別町まちづくり交付金 事後評価委員会設置要 綱	
その他の委員	鹿島 豊隆 本別町都市計画審議会 委員 大西 光夫 本別町都市計画審議会 委員				

審議事項 1		委員会の意見
事後評価手 続き等にか かる審議	方法書	特に無し。
	成果の評価	適正に評価されている。
	実施過程の評価	適正に実施されている。
	効果発現要因の整理	適正に整理されている。
	事後評価原案の公表の妥当性	妥当である。
	その他	特に無し。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きは妥当に進められている。
今後のまち づくりにつ いて審議	今後のまちづくり方策の作成	検討体制等妥当である。
	フォローアップ	妥当である。
	その他	妥当である。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	妥当である。
その他	公共交通の利用促進として、バス利用者のさらなる利便性向上を目指す為、待ち時間を快適に過ごせるソフト事業を検討をする。道の駅に地場産品が置かれている事が重要であり、地場産品の推進として、農産物加工施設の有効活用や新たな起業化への支援策が重要となる。農産物加工施設については、検討組織を中心に地産地消、食育等の理念を基に、観光、産業、教育等と連携を取りながら、事業を継続して行く。跨線橋等の旧ふるさと銀河線の遺産をどのような形で見せて行くのか、利用計画を作成しながら、戦略的に進めて行くべきである。次なるまちづくりに向けて、アンケート調査などニーズの把握をする事が重要。	